

資料2 第2回協議会及び協議会後の意見(概要)

9月27日の第2回協議会における委員の意見及び、第2回協議会開催後、ご意見提出用紙でいただいた意見の概要です。

内容構成

- 1 土地利用についてのご意見
- 2 景観についてのご意見
- 3 その他のご意見
- 4 協議会後の提出意見

1 土地利用についてのご意見

施設の立地場所

- ・N○.4駅付近の畠以外、施設を建てられるような土地は見当たらない。また、施設によっては、住宅地にふさわしくない場合もあるため、立地は駅の近くになるのではないか。
- ・流山市の事例だが、駅付近に保育施設や食料品店が立地しており、共働きをしている子育て世帯の流入が増えた実例がある。このような成功事例に倣うことも大切ではないか。
- ・駅前にどのような機能を持たせるかを考えることが一番大切だと考える。

多世代交流施設

- ・多世代交流施設は三ツ木に学習等供用施設があるため、同じ機能であれば、あえてここに誘導しなくて良いと感じた。しかし、市の西側地域に比較的公共施設が少ないため、住民の集まる場所の確保を図るという観点では、意義はあると思う。
- ・調布市の多世代交流施設は機能も充実しており、利便性も高い。検討の参考になるのではないか。また、N○.4駅だけでなく、各駅の施設間で連携して運営していく目線が大切である。
- ・高齢者の孤独死が増えている。コミュニケーションができなかつたら人は生きていけない。このことへの対応として、交流するための施設は必要である。また、地域の文化を育むという観点から、伝統芸能を活かすことも重要である。

運動交流施設

- ・自転車道に腹筋や懸垂などを行うフィットネス器具を設置しても良いのではなか。
- ・フィットネスジムは総合体育館にもあり、また、民間の施設も様々な場所にある。多世代交流施設も運動交流施設も、サービス内容や施設へのアクセスなど、どのように集客していくかという道筋を考えいかなければならない。

あってほしくない施設

- ・カラオケボックスやゲームセンターのような施設は望ましくない。
- ・大型車両の交通量が増えることで生活道路が荒れることになるため、そういった施設は立地してほしくない。
- ・野山北公園自転車道は程よい散歩道になっており、また将来的にもN○.4駅から連続性があるところも魅力である。ファミリー層も自転車道に魅力を感じて引っ越してきているのではないかと感じている。自転車がスピードを出して行き交うようになることは少し懸念がある。

土地利用、施設立地の可能性

- ・民間発意の場合、利益が出る見込みがなければ、いつまで経っても目的の土地利用が図られない可能性がある。協議会の中でどこまで議論すれば良いのかわからぬい。
- ・例えば25mプールを設ける場合、ある程度大きい建物が必要となり、先に案として掲げたとしても建てられる土地の目途が立っていないと立地は難しいのではないか。

2 景観についてのご意見

建物の高さの制限

- ・モノレールからの眺望はとても大切だと感じており、大きな魅力にもなる。商業的な観点から見た場合、17mといった高さ制限は現実的な制限内容なのか。高層化を図るというのは民間としては当たり前の判断であり、建ってしまってから反対運動が起こることにならないよう、しっかり高さを抑えていくべきと考える。
- ・5階建て程度の高さでもこのエリアの人は抵抗があるのではないか。「武藏村山市の落ち着いた住環境が良い」という方も多い。高さの制限は15mより厳しくてよいのではないか。

新青梅街道の南北での地域差

- ・日影規制や北側斜線制限などで建物の高さが規制されるが、新青梅街道の南側は高い建物が建ちやすくなる。一方で、新青梅街道の北側は日影規制等の厳しい第一種低層住居専用地域が隣接している影響で、3階以上はほぼ建たない。
- ・景観の観点から、南側の人としては可能な限り高い建物を建てると思われるので、高さの規制は必要と考える。
- ・日陰の問題など新青梅街道の北側と南側で地域差も生じるため、それらを考慮して検討を進めて行く必要がある。

3 その他のご意見

異文化交流・外国人

- ・多世代交流とあわせて、異文化交流も考慮した方が良い。
- ・No.4駅周辺に勤めている外国人の方にも意見を聞いた方がいい。海外から日本に移ってきた方ならではの要望があるのではないか。

拠点の範囲設定

- ・拠点となるのは資料で示されたピンクの地域だが、まちづくりの観点で考えると狭いのではないか。残堀川などを活かすのであれば、検討範囲を広げた方が良い。

意見の収束方法と提言書のとりまとめ

- ・これまで多岐に渡る意見が出されているが、どのように収束させていくのか。そこが明確になっていないと、議論を尽くして出せる提言書にならないのではないか。
- ・No.4駅を中心とした拠点を形成するという共通認識を持って検討や発言を行えば議論がスムーズになるのではないか。駐輪の規模等の個別施設の詳細な検討は実際に作る際に、専門家の検討・分析に委ねて良いのではないか。

検討にあたっての参考となる情報

- ・予算や人口動態、年齢構成比、乗降客数などがわからないため、施設を考えるにあたっての規模感等がわからない。

4 協議会後の提出意見

- ・多世代交流スペース、居場所として、特に課題も設けずに気軽に出てきてくれるスペースが駅の近くに欲しい。伝統ある郷土芸能が継承される、文化創成の起点として認識を更に深めておくことが必要である。
- ・引きこもり、不登校を抱えている親御さんたちの悩み、また、学習支援したい先生方の思い、現況をもっと具体的に聞くべきだと思う。
- ・国際交流も活発になり、企業でも多くの在日外国人雇用がされている。その方々の意見もまちづくりに活かしていくべきだと思う。
- ・新青梅街道と残堀街道は緊急輸送道路に指定されていることから、沿道の建築物は耐火構造を誘導すべき。
- ・山王森児童館を移設し、多世代交流施設として活用してはどうか。
- ・駅のプラットホーム等からの眺望に配慮し、駅前の高度利用は避け、建蔽率、容積率を緩和することで機能集積を図るべき。
- ・安全・快適な歩行空間、くつろげる歩行空間（ベンチ、アーケード）を整備すべき
- ・残堀街道の整備を促進すべき。（幅員16m）
- ・市内循環バスや乗合タクシーの再編を行い、モノレールを中心とした公共交通網を形成した方が良いのではないか。
- ・交通マップの作成などにより公共交通の利用促進を図るべき。

- ・三ツ木消防跡地の活用などにより、自転車置き場を南北に設置すべき。
 - ・駅前拠点施設に対する提案
- 駅舎との直接接続、展望スペース、医療モール、送迎保育ステーション、文化・学習育成施設、観光交流拠点、子ども食堂、地域農産物直売所、イベント広場